

10. 小規模少人数学級校における実践

(1) 高学年音楽科の検証

① 研究のねらい

音楽の美しさに感動する経験を数多くもたせ、その楽しさを身につけさせることによって、情操を高め、豊かな創造性を養うことをめざしている。

本校のように小規模少人数学級校においては、音楽科の器楽・合唱等の分野について、児童集団編成の上で制約を受け、音楽的感覚場面の構成から本質的な授業の展開に困難性が見られる場合が非常に多い。その障害を除去するため、近接2学年を合併しての児童集団の再編成による授業が考えられる。学習の成果は個人に成立しなければならないと言うことを前提として、協力教授活動による教師の役割分担によって指導し、児童ひとりひとりの学習をより効率的に定着させようとする研究のねらいを具体的にあげると次のようになる。

ア、学年のわくをはずした集団の再編成による教授過程を確かめる。

イ、教授過程で段階的な教師の役割分担を確かめる。

② 5・6年の音楽

ア、題材名 星の世界

(ア) 広大な星の世界へ思いをよせ、歌唱表現させる。

(イ) へ調調の視奏になれさせ、笛、鉄琴、オルガンなどで楽しく旋律を表現させる。

(ウ) 和声の美しい流れを味わうようにさせ、和声に合ったふし作りをさせる。

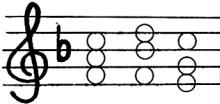
イ、児童の実態

(男子19名、女子13名 計32名)

(ア) 音楽学習は全員好み、特に器楽への関心は強い。

(イ) 発声はまだ不揃であるが、合唱のハーモニー感はわかるようになる。

ウ、題材構成

題材	項目	細 目 標	内 容 系 列	評 値 項 目
星 の 世 界		(1) 歌詞の内容を理解させ情景を想起させる。 (2) リズムの構成を理解させ、音程を正しくとらえて歌わせる。 (3) へ長調の音階をわからせ視奏になれさせる。 (4) 笛、オルガンの指使いをわからせ、旋律奏になれさせる。 (5) へ長調の和音の理解を一層深めさせる。  (6) 星の世界の各段のふしに合った和音を理解させる。 (7) へ長調の和音(I IV V)に合ったふし作りになれさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲の歌詞内容を知り、情景をつかむ。 ○ 曲の形を知る。 ・何調・何拍子か。リズム構成・1, 2段と3, 4段の比較をする。 ○ 歌唱をする。 階名視唱・歌詞唱 ○ 演奏する合奏譜の見方を知る。 ○ オルガン・笛の旋律奏をする。 ○ 旋律楽器の合奏をする。 ○ へ長調の和音I・IV・Vを深める。 ○ 星の世界の各段のふしと和音の関係を調べる。 ○ 曲に合わせて和音伴奏する。 ○ I・IV・Vの和音のふし作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌詞の内容や情景がとえられたか。 ○  のリズムをつかみ、曲の形がわかったか。 ○ オルガン、笛の指使いがよくできるか。 ○ 音色に気をつけ、旋律奏ができるか。 ○ へ長調の和音の位置がわかり、オルガンでひけたか。 ○ 旋律に合ったI IV Vの和音の関係がつかめたか。 ○ 曲に合わせて和音伴奏ができたか。